平成20年（2008年）
第1298号
6月10日

西宮（にしのみや）市政にニュース
Nishinomiya Muni. Bulletin

毎月10日・25日 発行

発行／西宮市役所
〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号
TEL／0798-35-3151（代表）
編集／総合企画局市長室広報課
TEL／0798-35-3400
Eメール／vo_kouhou@nishi.or.jp

今号の主な記事

◇「西宮市防災マップ」を配付 …3面
◇交通死亡事故多発警報の発令……2面
◇義援金を募集……2面
◇来年4月採用予定の市職員を募集
（事務職、技術職、消防職）……4面

安全・安心な暮らしを守る
災害への対応力を強化

横転した車両内から救出する訓練を行う救助隊員。日ごろから訓練を行い、24時間体制で救助に備えています

高度救助隊を設置

市は、47万市民の皆さん一人ひとりが安全に安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

4月に市が中核市に移行したことで、多様化・複雑化した災害や大規模な事故などにも対応できる「高度救助隊」を配置し、迅速で効果的な対応力を強化します。今回は、高度救助隊と配備された高度救助用資機材などを紹介します。

近年、阪神・淡路大震災やJR福知山線脱線事故、ミャンマー・サイクロン、中国四川省地震などの大規模災害が多発し、災害の形態も、年々、多種多様化しています。

今後予想される南海・東南海地震や人口の増加、高齢化の進展など社会情勢や時代の変化に伴い、緊急出動件数は一層増加していくことが予想されます。

全国的な救助体制の強化を図るために、平成18年3月に「救助隊の編成、装備及び配置の基準を定める省令」の一部が改正されました。この改正に基づき、中核市には「高度救助隊」を設置することになりました。

「高度救助隊」は、人命の救助について専門的かつ高度な教育を受けた隊員5人以上で編成します。市は高度救助用資機材を配備するなど、高度救助隊発足に向けて準備を進めているところです。地震などで、がれきに閉じ込められた人を画像や音声で検索する「画像探索機」など高度救助用資機材を積載できる救助工作車も配備しました。

災害など、いざというときに備え、多種多様な救助現場に対応するため高度救助隊員はもちろん、救助隊員全員が質の高い救助技術や知識を身に付け、皆さんの安全を守っていきます。

今後も、地域の実情に応じた総合的な消防・救急救助体制の充実に努めます。

問合せは消防局企画課（0798・32・7326）へ。

高度救助用資機材を配備

画像探索機

先端CCDカメラ（長さ約6㍍）で、がれきのすきまから挿入する先端のカメラ部分は通話も可能。閉じ込められた生存者の確認に使用します。

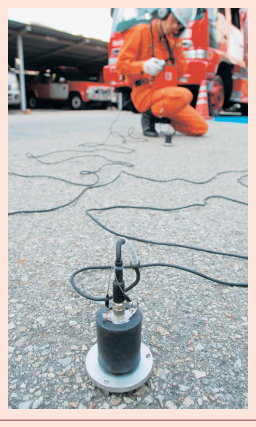
熱画像直視装置

火災現場など濃煙下で、人の放射熱を感知して画像を映します。

夜間用暗視装置

夜間、照明がなくても微弱な光を増幅し周囲の状況を映し出す装置。

地中音響探知機



倒壊した建物や土砂のすきまに、閉じ込められた生存者の発する音や振動をセンサーで感知し、生存者の発見に用います。

地震警報器

地震の余震を感知し音と光によって知らせ、二次災害を防止します。

災害時 民間病院の救急車を有効活用

市は、4月21日に西宮市医師会と「西宮市消防協力隊」協定を締結しました。災害時、民間病院では患者の治療に手一杯で救急車を活用できないことが想定され、また市では、患者を搬送する救急車が不足することが考えられることに着目しました。

今回の締結で、同医師会に加盟している民間病院の救急車（7台）に市救急隊が乗務し、災害時に患者を搬送する際に活用できるようになりました。

市長からのメッセージ
災害への備えを

山田　知市長

ミャンマー・サイクロン、中国四川省地震の被災者に心からお見舞い申し上げます。

災害で逃げ遅れた人や交通事故で車に閉じ込められた人など尊い人命にかかわる救助活動は、素早く的確に対応しなければなりません。

市は、職員数の削減を進めていますが、本年は消防職員22人、4年間で67人を増員するなど、消防力の増強をいたします。また、高度救助隊員の救助技術の向上や装備の充実に一層努めてまいります。

今後も関係機関と連携をとりながら、安全・快適なまちづくりに全力で取り組んでまいりますが、災害は、その規模が大きいほど行政機関だけでは十分な対応が難しい場合があります。

皆さん一人ひとりが日ごろから家庭で、災害や事故への心構えと備えを持ち、地域ぐるみで取り組んでいただくことをお願い申し上げます。